

地域イベントでの花育ワークショップ 親子「フレッシュグリーンのリース」作り

作成者：花育アドバイザー 高野 恵聲
(花あそび 恵聲塾 主宰)

■ 対象者・人数：幼児～小学校高学年生 親子20組

■ 所要時間：1回90分 ※1日2回

■ 対象場所：イベント会場内

※花・緑タウンフェア in 沼津「親子教室」にて開催

■ 指導者・アシスタント人数：

花育アドバイザー1名、アシスタント1～2名

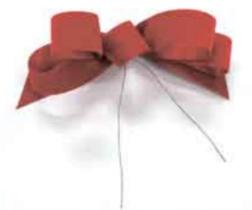
協力：イベント主催者等スタッフ



■ 資材

- ・リボン
- ・はさみ
- ・ワイヤー（あれば糸巻きワイヤー）
- ・麻ヒモ又は、たこ糸
- ・吸水用ピック（バラ用）

※吸水用ピックが用意できない場合は、そのままドライフラワーとして楽しめる花材を選んでも良い。



ワイヤーをつけたリボン



はさみ

■ 花材や植物

- ・稲わら（リース土台）
- ・木の実
(マツボックリ、どんぐり等)
- ・セイヨウヒイラギ
- ・ヒノキ、ヒバ、スギなどの枝
- ・バラ 2本

※切り花がない場合は、木の実やカラーリーフで代用も可能

(カラーリーフとは…銀葉や銅葉、斑入りのほか、カラフルな色彩の葉の植物の総称)



稲わらリース土台



木の実類



ヒイラギ



レイランドヒノキ



ピックに刺したバラ
※他の切り花でも可能

【指導内容と目的】

- ・土台の稲わらに、ヒノキなどの枝を差し込む課程では植物の香り（アロマ）を楽しみ生の植物ならではのぬくもりを味わってもらう。
- ・飾り付けでは、デザインのバランスなどを指導し、各自の感性を尊重したデザインとする。
- ・親子での共同作業を通じて、日常の生活の中とは異なる時間を共有しコミュニケーションを図る。

【対象者への配慮】

- ・口頭の説明で理解しにくい部分は、見本を用いて説明する。
- ・参加者にまんべんなく目配りや声かけができるように教室を廻り、一人に時間をかけすぎないように注意する。
- ・全体の進み具合を常に確認し、進行が遅い参加者についてはアシスタントが補助をする。

1. 事前の準備

■ 主催者との確認事項

- ・ 開始時間と終了時間（実際の講習時間）など確認
- ・ 会場のレイアウトや設備の確認
- ・ 全体の進行状況を見ながらタイムキーパーの役割が出来る人を依頼する。
（講師、アシスタント以外の人が時間を把握して進み具合を確認する）

■ 使用する資材の準備

資材は、予め一人分ずつに小分けにしておき、人数分と見本+予備の数量を用意する。

・ 稲わら（リース土台）

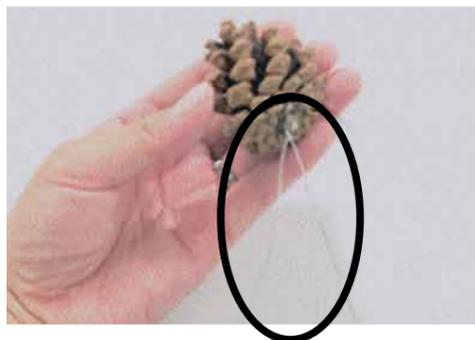
秋に収穫した稲わらが入手出来る場合は、輪にして土台を用意しておく。稲わらは、少しずつずらして全体の長さを調節しながら麻ヒモで巻き、円になるようにまとめる。壁にかけられるように麻ヒモの輪を作っておく。

※稲わらの入手が困難な場合は、園芸資材店やディスカウントショップ等で購入したものを使用しても良い。



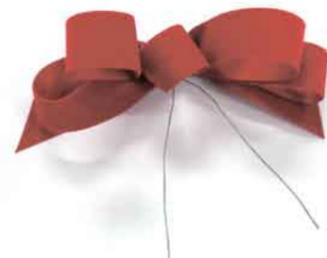
・ マツボックリやどんぐりなどの下準備

木の実類は、そのままではリースに取り付けが難しい為、ワイヤーを巻き付けて準備しておく。



・ リボン

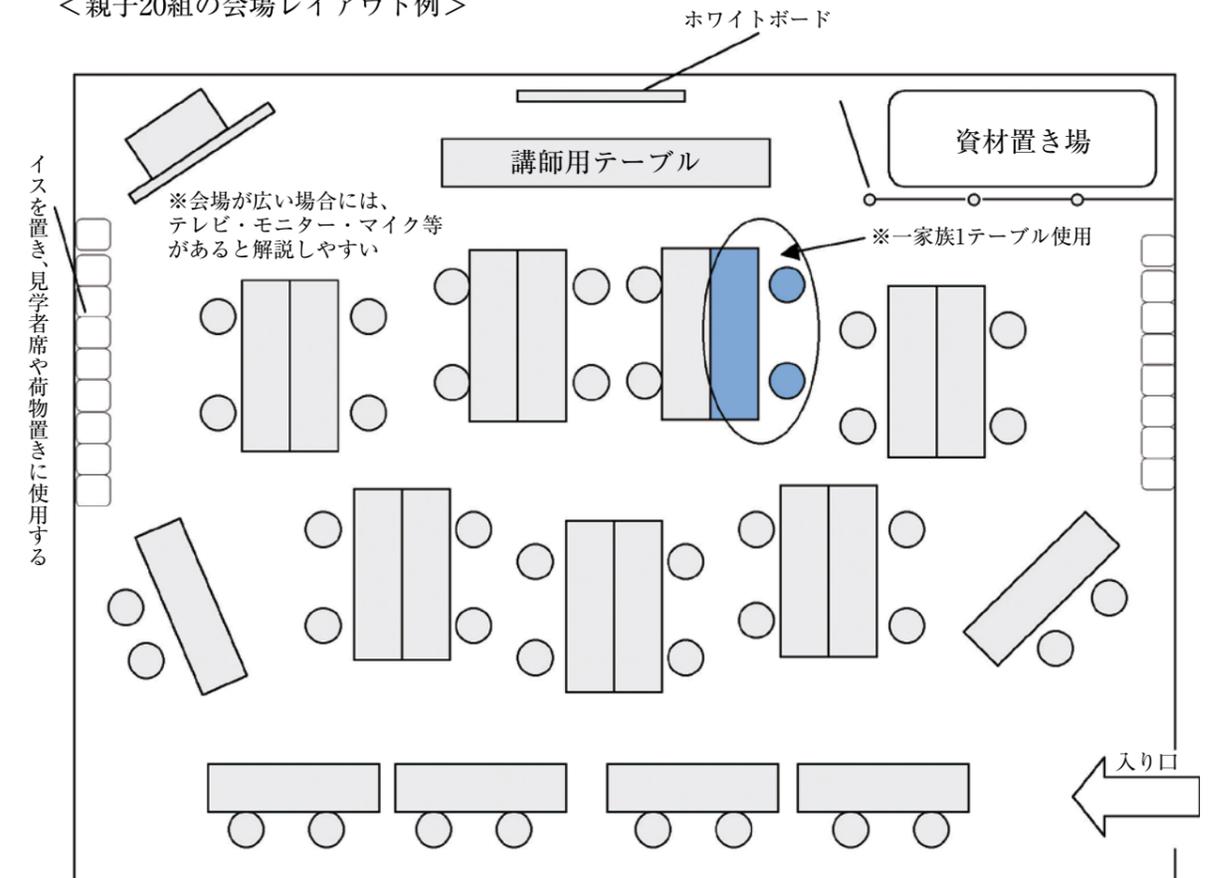
表裏のあるリボンは、表面が出るようにねじってリボンを重ねていく。



■ 当日の準備

- ・ 開始1時間ほど前に、講師・アシスタント集合
資材搬入後にミーティングを行い手順等の最終確認を行う。
- ・ テーブル、イスなど参加者の人数に合わせて配置する。

<親子20組の会場レイアウト例>



- ・ 講師やアシスタントが、各テーブルをまわりやすいように通路を確保する。
- ・ イベント等でワークショップを開催する場合は、参加者が初対面の場合が多いので和やかな雰囲気を作る工夫として、グループ形式にすると参加者同士が対面して会話がしやすくなる。
- ・ 空いた席やイス・テーブルなどを使い、家族などの見学席や参加者用の荷物置き場を作るとよい。

■ 花材の準備

- ・バラの下準備：切り花を使用する場合は、花が長持ちするように吸水用ピックを使用すると良い。花が枯れた後に他の花を差し替えることも可能。



①バラは、十分に水揚げ*を行ってから花首から7~8cmぐらいの長さに切る。



②切り花用の吸水用ピックのフタをとり、プラスチック部分に水をいれてフタをしっかりと閉め、バラを差し込む。その時に、花をしっかり押さえて茎が折れないように注意する。



③吸水用ピックの穴が小さい場合は、はさみなどで切れ込みを入れると挿しやすい。茎の太さに合わせて切り込みを調節する。



④バラの下準備完成

※水揚げ

水の中で、茎の先端を2cmぐらいはさみで斜め（吸水面積を広げるため）に切る。斜めに切って、15分~20分ほど水につけておく。花を長く楽しむためには、水揚げをきちんとする事が大切。

■ 資材の配布・セッティング

下準備が終わったら各テーブルに資材を用意する。テーブルが汚れないように、一人1枚古新聞を敷き、リースの材料や花材を一人分ごとに並べる。



※小学校低学年が参加の場合は、はさみなどは使用する直前にアシスタントが配布をして、使用後に回収すると怪我の危険が少ない。



2. 当日の流れ

・時間 10:00~11:30 (所要時間 90分)

※終了の10分前には、全作業を終了してテーブル周りを片付ける。

■ 参加者の出欠確認

開始、30分程前から受付を開始する。

- ・参加者事前募集の場合は、参加者名簿で名前を確認する
- ・参加費（500円）を受付で徴収する。

※釣り銭や領収書を用意



■ 具体的な手順

①講師・アシスタント挨拶・自己紹介

- ・講師やアシスタントが行っている花や緑の活動や花育活動についても紹介するとよい。

- ・花や植物のマメ知識などを織りまぜると植物に対する関心が深まる。



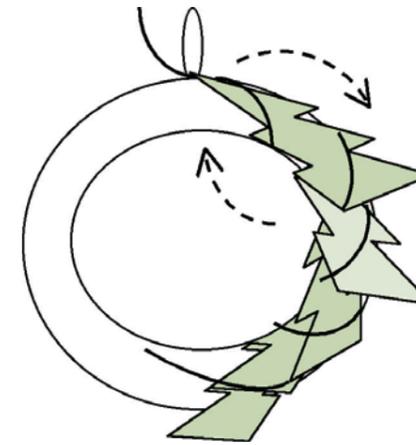
②リースの説明

リースとは、花や植物を輪にした飾りのことを言い、輪という意味で終わりのないエンドレスと言うことから永遠不滅を意味する。

終わりのない命、永遠の愛…そんな願いを込めて愛する人々がいつまでも健康で幸せが続きますようにと願いリースを作る。

リースの由来については諸説あるが、常緑樹など殺菌・抗菌作用のある植物を玄関に飾り、魔除けのためという由来と、豊作を願って飾ったという話が有名である。

リースの飾りに使われるマツボックリや、木の実などは「収穫」を意味している。現在では、お客様をお迎えする縁起の良い飾りとして家のドアに飾られることも多い。



90cm程度の細いワイヤー（糸巻きワイヤーなど）を用意して、上部の麻ヒモの辺りからワイヤーを斜めに巻きながら稲わらに差し込んだヒノキを上から止めるように時計回りに7～8cm間隔ぐらいに巻いていく。

左手で、ヒノキの上からわらを握る様にしてワイヤーを巻き、ワイヤーの土台が隠れるように、隙間に細い枝などを挿して埋めるときれいに仕上がる。

・リースづくり

(稲わらの土台にヒノキ・ヒバなどの植物を巻き付ける)
巻いてある麻ヒモの下からわらに差し込むように巻いていく



リース土台の麻ヒモが付いているところを上を持ち、はじめに麻ヒモの結び目にヒノキやスギの枝を挿し、



次に稲わらに時計回りにヒノキやスギの枝を挿し込む。
長い枝から挿していくと形を作りやすい。



ホワイトボードや黒板があれば、図解をして説明すると理解がしやすい。



稲わらに5本程度ヒノキなどを、半周分ぐらいを目安に差し込み挿していく。



リース土台を一周ヒノキなどで巻き終えたら、麻ヒモを持ち斜めに偏らないかバランスを見る。隙間があれば残りのヒノキを挿す。



※リースの裏側には、植物を挿さなくてよい。

③飾り付けのポイント説明

・リボンの位置を決める
リボンをリースのどの位置に付けるか決め、リボンに付いているワイヤーでリースを挟み込むようにしてリースの裏側で2、3回クロスをしてねじり留める。



・ヒイラギの位置を決める

赤い実を、リースの3か所に分けて飾りつけると全体のバランスがよい。

その他、デザインを自由に考えてもよい。

※ヒイラギは、トゲがあるので注意すること。



⑤手直し・講師やアシスタントに確認してもらう。

飾りの位置やワイヤーがしっかりと留めつけられているかなどのバランスを確認する。

家に持ち帰った際に、設置場所から落下したり風で飾りが外れることが無いように十分に確認する。



⑥出来上がった作品の写真撮影・感想を書く

使用した素材や、植物の名前を記録したり出来上がった作品を写真に残すと家族の思い出になる。

クリスマスカードの写真素材としても活用できる。



⑦後片付け

作品が出来上がったら、テーブルの周りのゴミやテーブルの下のゴミをまとめて道具を片付ける。

⑧今後の管理方法説明

- ・バラの吸水用ピックの中の水を足す。
- ・リース全体に、霧吹きをするとみずみずしい状態が長持ちする。

⑨感想の発表・終わりの挨拶

- ・作品もみんなで鑑賞し、工夫した点やアイデアを発表しあう。
- ・時間があれば子供、保護者それぞれの感想を発表してもらう。

④飾り付け作業

・ヒイラギ、マツボックリなどの木の実を飾る

デザインが決まったらワイヤーでリースに留めていく。

リースを保護者が持ちワイヤーで留めやすいように補助をする。



・バラの飾り方

切り花を飾る場合は、吸水ピックの部分を持ち、稲わら土台に差し込む。花と花が向き合うように飾るとバランスがよい。



■ 指導ポイント

- ・わらの土台にヒノキを差し込んで巻き付ける時、手で押さえながら太さが均一になっているか 確認しながら作る。
- ・糸巻き状のワイヤーは、伸ばさずにリースに巻いていくと巻きやすい。
伸ばしてしまうと巻きにくい。

■ 所要時間や配分

開始60分前

集合・学校や主催者への挨拶・打合せ
スタッフミーティング・使用する資材や花材の確認

Time 所要時間

0分 (10分)	①参加者着席を確認して、講師挨拶（講師・アシスタント自己紹介） 作業についての諸注意
↓	
10分 (15分)	②リースづくり（稲わらの土台に植物を巻き付ける）
↓	
25分 (10分)	③飾りの付け方ポイント説明
↓	
35分 (20分)	④飾り付け
↓	
55分 (10分)	⑤手直し、講師・アシスタントは、一人ずつ確認
↓	
65分 (10分)	⑥出来上がったら写真を撮ったり感想を書く
↓	
75分 (10分)	⑦片付け
↓	
85分 (5分)	⑧今後の管理について、説明する ⑨終わりの挨拶
↓	
90分	終了

30分 (30分) ⑩最終的な片付け、スタッフ・教師・主催者等終了ミーティング